

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通ネットワーク計画に基づく事業)

平成27年 1 月 6 日

協議会名:燕・弥彦地域公共交通会議

評価対象事業名:地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
1.株式会社 タクシー	燕市デマンド交通 おでかけきらん号	平成25年4月より本運行を開始したデマンド交通であるが利用者の満足度も非常に高く、運行開始以来利用者が順調に増加を続けており、その結果として当初の運行台数(5台)では運行がひっ迫し、予約が取りにくい状況になってきていたことから、平成25年12月16日より1台増車の実証運行を開始、平成26年4月より運行車両を5台から6台に増車しての本運行を開始し運行状況を改善した。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	A デマンド交通の1日平均利用者が目標の150人/日(年換算36,600人)を上回り158.8/日(年換算38,759人)となり、事業が計画に位置づけられた目標を達成した。	当初予定していた利用者数より利用者数が多いため予約の電話がつながりにくい(特に朝の時間帯)状態となっているため、弥彦村へのエリア拡大に併せ、予約受付端末の増設及び予約オペレータを増員し、予約状況の改善を図る。
2.株式会社 中央タクシー					
3.中越交通株式会社					
4.まきタクシー有限公司					
5.地藏堂タクシー有限公司					
6.弥彦タクシー株式会社					

事業実施と生活交通ネットワーク計画との関連について

平成27年1月6日

協議会名:	燕・弥彦地域公共交通会議
評価対象事業名:	・地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	燕市は、越後平野のほぼ中央、県都新潟市と長岡市の間に位置し、面積は110.94km ² で、地勢は平坦地が大半で、可住地面積割合は県平均35.6%に対して燕市は93.8%と県内市町村では最も高く、市街地や集落が市内一円に広く分散しています。人口は、平成12年の約84,300人をピークに減少に転じ、平成22年には82,000人を割り込み、10年間で約3%減少している一方で、平成22年の高齢化率は25%に達し、全国平均を上回って高齢化が進行しています。公共交通では、新潟市等へ通じるJR越後線と三条市等へ通じるJR弥彦線が交差し、市内外を結ぶ幹線的な公共交通機関となっており、路線バスは鉄道網の空白部分を埋めるように2社のバスが乗り入れているが、市内各駅の鉄道乗車人員、路線バスの利用者は、いずれも概ね減少傾向で推移しており、鉄道や路線バスの空白区域内をデマンド交通でフィーダー(支線)的な公共交通として運行することにより、利用者が減少していた巡回バスに代わる交通体系を確立し、高齢者をはじめとする住民の通院・通学や買い物などの生活活動を支えるとともに、公共交通空白地域の解消を図り住民の生活交通手段を確保していくことが必要。